

聖書:ルカの福音書10章38~42節

説教:必要なことは一つです

はじめに

教会で大きな集会を開くために準備の話し合いをすると、必ず皆さんの関心が食事をどうするかに向かように感じます。誰が材料を用意して、誰が調理をし、どのようにテーブルに並べるか。そういう気遣いは私にはできませんから、なおさら感心します。

今日開いているところに登場するマルタも、お客様を迎えるために一生懸命準備しなければと考えるタイプです。ところがマリアの方は何も手伝わないので、マルタは頭にきてイエスに苦情を訴える。そこまではどこにでもありそうな話しですが、イエスが「マリアはその良いほうを選びました」とお語りになって、頭に血が上っているマルタがあたかも間違った選択をしているかのように語っているのを読んで、戸惑う方もおられるのではないのでしょうか。

なぜマリアは、主の足元に座ってマルタの手伝いをしなかったのか。そして、いつものことになりますが、イエスはここで何をお語りになろうとしていたのか。そのことを考えて参ります。

1 性格の違い？

1) もてなすマルタと手伝わないマリア

マルタとマリア、この二人の性格は対照的です。マルタはお客様をもてなすために一生懸命台所仕事をして行動的、おまけにイエスに「こうしてください」と訴えるくらい、人を指示するタイプと断言していいでしょう。一方のマリアはその反対で、動くことよりも静かに何かを考えるタイプのように見えます。マルタはマリアが何も手伝おうとしないことに腹を立て、イエスにこうまくし立てます。40節。「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするように、おっしゃってください。」

2) なぜマリアは主の足もとに座るのか

マルタが腹を立てる気持ちがよくわかるという方も多いでしょう。ではマリアはどうでしょうか。どうして手伝おうとしなかったのか、不思議に思いませんか。確かに性格の違いはあるでしょう。でも、マリアが主の足もとに座って動こうとしないのは、少々奇妙ではないのでしょうか。あま

り気がつかないタイプの女性だったというわけではないでしょう。

この二人の姉妹のことはヨハネの福音書にも登場するのですが、そこを見るとマリアは決して鈍感な人ではなく、むしろかなり繊細な女性であったように感じます。マリアが、主の足もとに座り、主のことばに聞き入っていたのには、それなりの理由があったのではないかと。そのことはまた後で触れることにします。

2 イエス

1) マルタ、マルタ

その前に、マルタの訴えにイエスどのようにお答えになったかを見ておきます。41節。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」

マルタは当然、イエスが自分の味方になってくれるものと信じていたはずですが。ところがまったく意外なことに、イエスはマリアがしていることは良いことで、あなたはそれを取り上げてはならないと語る。それだけでありません。もう一つショックなことがある。それは、「マルタ、マルタ」と名前を二度呼んでいることです。聖書で神が人の名前を二度呼ぶということはかなり特別なことで、重要な場面にしか出てこないのです。

例を挙げます。モーセがミディアンの地で羊を飼っていると、燃える柴を見つけて近寄ってみようとしたときに神は「モーセ、モーセ」と二度名を呼んでから、エジプトで苦しんでいるイスラエルの民を救うご計画を明らかにしていきます。

もう一つの例を挙げます。アブラハムが一人息子のイサクを祭壇の上の薪の上に載せ、刃物を振り上げてイサクを屠ろうとしたとき、主の使いが天から「アブラハム、アブラハム」と呼ぶ場面は覚えておられるでしょう。アブラハムの手を止めるために、名を二度呼ぶ。そうやってから、人を救うために神である方がひとり子をおさきげになるという救いの計画を明らかにするのです。

このようなケースがあるので、イエスがマルタの名を二度呼んだのは、なにか重大なことがあったからと考えなければなりません。

2) 優先順位の問題なのか？

この箇所についていろいろな方が解説をしています。だいたいこんな説明がされます。「イエスは私たちに何が最も大切なのか、優先順位を教えてくださいました。私たちは、目の前のことで心を乱していたマルタのようではなく、マリアのようにつきもイエスのみことばを聞く者とならなければなりません。」

皆さんこの説明を聞いてどう思われるでしょうか。お客に出す食事の準備は後回しにしても、まず神のみことばを聞くべきである。そう言い切られて、納得できるでしょうか。もちろん、主のみことばを聞くとは大切です。だからと言って、マルタが完全に間違っていたと結論づけてしまうべきなのか。それではあまりにもマルタがかわいそうではないですか。マルタはどんな女性ですか。38節です。「すると、マルタという女の人がイエスを家へ迎え入れた。」マルタは自分から進んでイエスを家にお招きし、一生懸命もてなそうと張り切った。少々頑張りすぎてしまって、いらいらしてしまったところは、確かに反省点ではあるかもしれませんが。でもマルタは間違っていたと言われるほど悪いことをしたのか。そんなことはない。マルタはマルタなりに、イエスに対する自分の信仰の表そうとしていたと思うのです。

そうすると、イエスは単なる優先順位の話をしているのではなく、何か事情があってそう語っているのではないか。それも、マルタの名前を二度呼ばなければならないほどの特殊な事情です。それはなにか。ところがここには、そういうことは一切書かれていません。

3 イエスとマリア (ヨハネ12章3節)

1) 主の足に香油を塗る

それでどうするか。先ほども少し触れましたが、マルタとマリアの二人の姉妹についてはヨハネの福音書にも出てきますので、そこを調べてみることにします。ヨハネ12章3節を読みます。

「一方マリアは、純粋で非常に高価なナルドの香油を一トラ取って、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りであらびになった。」

このマリアは今日の箇所と同じマリアです。マルタとマリアには実はもう一人ラザロという兄弟がいて、あるとき病気が何かで危篤になってしまう。姉妹はイエスを呼ぶにやるのですが、なぜかイエスは遅れてしまい、やって来たときはラザロが亡くなってすでに四日経っていた。ところがイエスが

墓の前に立ち、「ラザロよ、出てきなさい」と叫ぶと、ラザロがよみがえって墓から出てきた。そういう出来事の後にこの12章3節に続いています。ここでもマリアがなぜ高価な香油をイエスの足に塗ろうとしたのか、マリア自身の口からはなんの説明もありません。その代わり、香油を無駄にしたと怒る弟子たちに対しイエスがこのように語ります。「そのままさせておきなさい。マリアは、わたしの葬りの日のために、それを取っておいたのです。貧しい人々は、いつもあなたがたと一緒にいますが、わたしはいつも一緒にいるわけではありません。」

イエスが間もなく殺されることをマリアが知っていて、葬儀の準備のためにあらかじめ香油を塗ったのかどうか。そのことについては、マリアは知っていたという人と、いや知らなかった。ただイエスがそのように高く評価してくれたのだと、二つの意見があります。私はいつも二つの意見の間で揺れ動いていて、どちらであるかは決めかねています。

それでも推測できることがいくつかあります。マリアは、弟子たちが怒り出してしまふほどの高価な香油をイエスの足に塗ろうとしました。そうしなければならぬほどの事情がマリアの中にあっただとしか思えません。このことと、ルカの福音書のところで、マリアがまるで主の足元に引き寄せられるようにして、座り続けて主のみことばに聞き入っていたこと。比べてみてください。この二つの出来事は別のことではない。何か深い関係がありそうなのです。マリアだってあのとき、マルタが忙しく働いていて猫の手も借りたいほどだということはわかっていたのです。でも立てないのです。まるでイエスのみことばに引きつけられるようにして、離れることができない。イエスはそのことがわかっているのです。「それが彼女からとりあげられることはありません」と語ります。

2) イエスの足

何がそこまでマリアを引きつけるのでしょうか。取り上げられることはないと言ったものとなんでしょう。そのことを最後に考えます。ルカの福音書、ヨハネの福音書に共通していることが一つあります。それがヒントです。ルカのところでマリアはイエスの足もとに座っていました。ヨハネのところでマリアはイエスの足に香油を塗りました。いずれも「イエスの足」が出てくる。なぜか。偶然とは思われません。ここからは推測になりますが、こういうことではないでしょうか。

3) 足を差し出すイエス

マリアは人からイエスの話を聞いていて、あの方はきよい方であり、こんな汚れて罪深い者に会うなど資格ないと思っていたのではないのでしょうか。しかしイエスが来たからと言って、自分の家から逃げるわけにはいきません。恐る恐るイエスを迎えます。当時の習慣として、家に入るときはお客の足を洗って迎えるのが礼儀作法でした。マリアがそれをする事になりました。イエスは「洗っていただけませんか」と、汚れた足をマリアに差し出します。その足を見た時、マリアは驚きます。この方はきよくて自分は触れることもできないと思っていたけれど、この足ならば触れることができる。それだけではありません。こんな汚れた者にも、「わたしの足を洗ってください」と優しく声をかけてくれた。その声を聞いて、この方は自分を受け入れてくれていることが一瞬で了解できた。だからマリアはイエスの足もとに座るのです。この方が語ることばを聞いて、私の罪が赦されていることを知り、その感謝を現すために、後になって高価な香油をイエスの足に塗っていく。

このとき、マリアはイエスから救いをいただいたのです。そんな大切な瞬間だったのでイエスはマルタの名を二度呼んでそのままにさせ、「それが彼女から取り上げられることはありません」と強く約束してくださいました。私たちがこの方からいただく救いのすばらしさをもう一度味わいたいと思います。